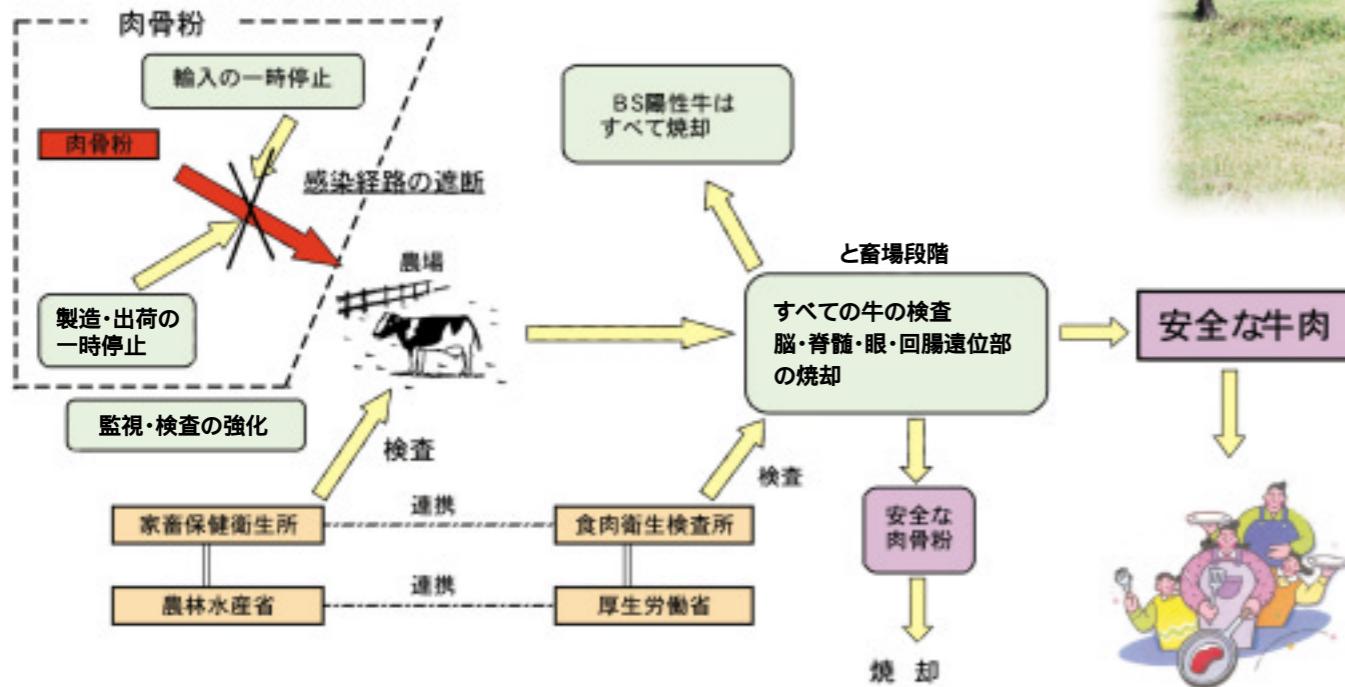


その①

牛海綿状脳症(BSE)の疑いのない安全な畜産物の供給について



牛海綿状脳症(BSE)の疑いのない安全な畜産物の供給体制の構築



牛海綿状脳症(BSE)に関する説明会開催

沖縄総合事務局では、安全な食肉以外はと畜場から市場に出回らないシステムが確立されたことを受けて、幹部職員が関係市町村長等に直接説明を行うとともに、北部・中南部・宮古・八重山における各地区の畜産農家、生産者団体、業界関係者等の生産サイドの方々に対する説明会、消費者団体、学校給食会、栄養士会、量販店等の消費・流通サイドの方々に対する説明会を随時開催し、生産者対策や食肉の安全性等に対する理解を求めてきました。

このような中で、説明会においては、生産サイドからは、今後の畜産経営が安定するよう段階の配慮をお願いしたい旨、消費・流通サイドからは、安全な食肉が供給されるようお願いしたい旨の要望がなされました。

説明会の開催により、生産者サイドには生産者対策に対する理解、消費者サイドには食肉の安全性についての理解が深まることと思われます。



新検査システムにおいては、BSE迅速検査において疑いのある牛を見逃さないようにするために、より感受性の高い検査法であるエライザ法を採用しています。その反面、この検査は、その牛がBSEでない場合でも陽性として検出

されています。新検査システムで採用するBSE迅速検査エライザ法は、その牛がBSEでない場合でも陽性として検出していることについて、ぜひ御理解下さい。

しやすい特性を持っています。したがって、このBSE迅速検査で陽性とされる牛が発見された場合は、さらに精度の高い確認検査を実施し、これによってBSEであると確定診断された場合だけ、全て直ちに公表することとしています。

また、BSEの主な感染源とされている肉骨粉等については、当分の間、すべての国からの輸入及び国内における製造・出荷を一時停止しました。これにより、BSEの感染経路が遮断されます。さらに、現在流通している加工食品について、製造者に対して自主点検を求めるとともに、特定危険部位の使用・混入が認められた食品の製造・販売の自粛や自主回収を指導しています。

また、BSEの主な感染源とされている肉骨粉等については、当分の間、すべての国からの輸入及び国内における製造・出荷を一時停止しました。これにより、BSEの感染経路が遮断されます。さらに、現在流通している加工食品について、製造者に対して自主点検を求めるとともに、特定危険部位の使用・混入が認められた食品の製造・販売の自粛や自主回収を指導しています。

また、BSEの主な感染源とされている肉骨粉等については、当分の間、すべての国からの輸入及び国内における製造・出荷を一時停止しました。これにより、BSEの感染経路が遮断されます。さらに、現在流通している加工食品について、製造者に対して自主点検を求めるとともに、特定危険部位の使用・混入が認められた食品の製造・販売の自粛や自主回収を指導しています。

今後、万一本牛がBSEで感染しても、新しい検査システムによって完全にチェックされ、食用としても飼料原料としても一切市場に出回ることはありません。

去る九月十日に牛海綿状脳症(BSE)、いわゆる狂牛病を疑われる牛が発見されたことをきつかけとして、各関係者の方々に食肉の安全性等に関する不安が拡がつておりましたが、農林水産省と厚生労働省が緊密な連携のもとでEUの検査基準をはるかにしのぐ世界最高水準の検査体制を確立したことにより、安全な食肉以外はと畜場から市場に出回らないこととなりました。

牛海綿状脳症(BSE)は、英米で実施されたBSE感染牛の材料のマウス等への接種試験で牛からマウスへの感染が明らかとなつた脳・脊髄、眼及び回腸遠位部以外の部分からの感染は認められていません。牛肉や牛乳・乳製品について不安を抱く方がおられますかが、このことは十分に御理解の上、安心して召し上がってください。

今回の事態を踏まえ、農林水産省と厚生労働省が協力して、と畜場において、食肉処理を行う全ての牛について、BSE迅速検査を実施

牛海綿状脳症(BSE)は、英米で実施されたBSE感染牛の材料のマウス等への接種試験で牛からマウスへの感染が明らかとなつた脳・脊髄、眼及び回腸遠位部以外の部分からの感染は認められていません。牛肉や牛乳・乳製品について不安を抱く方がおられますかが、このことは十分に御理解の上、安心して召し上がってください。

牛海綿状脳症(BSE)が疑われる牛が発見されても、新しい検査システムによって完全にチェックされ、食用としても飼料原料としても一切市場に出回ることはありません。

牛海綿状脳症(BSE)が疑われる牛が発見されても、新しい検査システムによって完全にチェックされ、食用としても飼料原料としても一切市場に出回ることはありません。

牛海綿状脳症(BSE)が疑われる牛が発見されても、新しい検査システムによって完全にチェックされ、食用としても飼料原料としても一切市場に出回ることはありません。